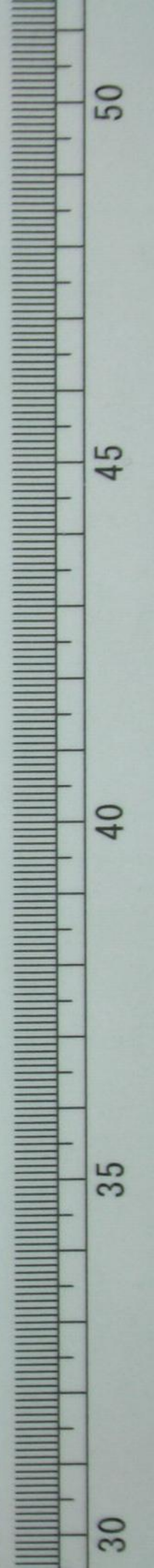


小精廬日誌
昭和三年四月
院以降

特別
14
1919
602



小精廬日誌

昭和三年四月中浣以降

四月

十七日

晴早大し、高杉の碓氷、五浦、安波、坂上、北條
 も、沼射を施す、野人、趙炳傑、田代、真木、の
 船、舟も、来る、洗鉢、之、依、乾、し、た、る、雪、と、災、化
 念、帳、の、通、成、り、石、井、安、吉、印、し、る、来、去、先、を、呼
 ぶ、こ、り、下、袴、物、こ、れ、を、贈、り、て、給、ふ、新、印

亮ちりて簡す。題簽を消え字を五冊巻す。林癸未と二簡す。午後西忠義石津正男来話。雑俎を著し。又陽に

十六日

晴。河内全集出版につき。龍村社意者を持。冬、坂口献吉前嶋男。毛利書局来訪。隨筆の終り時を移す。大阪友田禪三印も。以龍山印又両先生遺稿二

冊を贈り来る。午後光を獲りて。歌集邦楽座の映畫を見。牛蒡の紋七帖。又志木十歌の畫幅表装成す。牡丹四鉢を焼出。

十九日

晴。朝未迄筆の稿を終出。森脇来話。四醜社河井如後も未出。又今井貫一も未出。印刷舎紙の古田十文以下。野山十歌。又ハ画會。漢画。とを紙捲上。一説は。時中。筆。と。致す。田中穂積娘の結

婿を祝する為に燈籠十の切手を送る。外出
中上野長久次来る儀を交付する義
民傳の房文を交付する。時々
を祝す即ち全全部族の茶室及び

二十日

雨満庭の楓樹新緑滴々朝来迄草子の行を候
右程村長法成辰令の計畫のつき森脇下山
来宿日米文化会令角田柳心も来流、錫

り上る田川出而田内の子と交行午後津念
寺のお徳阿弥のつき唐瀬の二人来振、富家
一何れも今夜も行く由ありき午後徳林と
神水稲谷長の中回考飯協分と長と松平頼
壽伯と会長と推す由ありき未法、今夜九時九
土令、東野野と見し、高松行をひき、一行田
中穂積坂を三十分五十分力、松波理下り
余五人也、今米、飯も五十分と飲る、十二時
寝、就く。

二十一日

明、今朝早、記念堂、稱念と異うて、後展
聖王車、入り、一行、旅、海、時、を、極、天、姫、取、野
、七、連、七、午、噴、二、時、田、山、野、下、車、一、更、り、
野、行、汽、車、と、乗、換、三、時、宇、野、着、直、ら、
乗、船、四、五、の、後、及、宇、野、出、向、不、も、船、中、
法、天、一、時、了、し、七、高、松、と、善、信、旅、館、一、祝、
、投、り、高、四、今、朝、改、と、別、是、朝、校、友、多、数、
十、分、迄、中、村、定、大、森、原、守、小、田、栄、次、入、谷、
哲、平、細、濱、福、多、中、ま、津、潤、五、等、と、合、さ、り、

田、中、ま、さ、る、ん、故、を、金、比、羅、寺、後、に、行、く、余、亦、
田、と、田、中、も、余、の、北、比、之、東、の、こ、ん、を、以、つ、七、三、回、
と、さ、り、旅、館、七、曾、湯、の、家、也、此、今、極、其、
削、削、中、り、と、中、中、大、の、二、野、六、二、三、の、と、り、
き、を、東、京、定、の、者、も、校、友、合、ら、も、極、其、分、東、
内、名、所、記、市、勢、一、等、恰、け、が、き、等、を、贈、り、人、の、
需、に、應、じ、揮、直、毛、高、田、と、院、念、を、其、日、
一、醉、中、一、学、校、の、所、未、う、つ、き、高、田、野、
奪、例、の、如、し、

二十二日

而六時起床、人の爲に庭じ色紙揮毫
十数枚、朝未臨筆の稱を収り五六枚成る。
鈴木次郎其訪其壘内を栗林公園と
公園と云ふて大都会新比下江をさす所多
く新像殊に有也、美術館ハ園内を今
其陣列を収ふ家名の心品古玩玉の物
是才殊に注意を惹きおけり、茶寮に三子
休遊の級去つて、瀟波館に到り、こゝに七と
松平伯部の在りし一室あり今大都会分道

竹に遊て在り、爰に校友関西大合をひらく
各地を巡る若の校友来合館に其合十二時
半合を畢る、城内の西寺部に到り、一回爰に
午茶の饗をさす、此部志大正三年の自
成と告げ流石に大規模、庭前の蔭蔭
殊に趣味を覚ふ、此の部を校舎函といふ
雨の爲に庭園を歩し得たり、其庭を
仰ぎ、校友と懐晚分場に入り、演説を數番を
見、一旦松柳の傍に入り、五時分合を、閉合の
校友の直觀合に臨み、初子元田取え亦長

を奉るまに各都去山と湯し道と合す
鶴を今後松平伯に伴りて新中野に
行の殿殿とあり十二時迄候に
製衣の膳土板と膳五十五回持ふ

二十三日

を撰候り九氣候實し早比行季を
伯来訪高田と大に伯の自動車
にけり伯の別荘と赴く一行皆
誠意あり自ら自動車を
回高松に来んと津田一行
を以て此の

才津田の海濱も松の名所也
軍志度を行を達す別荘の
に在り小室崎を望み風景
間と散策風景を弄す十一時
松平伯と同行の平田徳衛
十二時別を出け自動車を
一行中講演会に出席中
口風を留め高田と廿二時
人と高平の七日船校友
又高平の

船中平田と語り時と福を、三時宇陀着互
ニ減るに福乗四時宇山、達一七下車平
田の故有錦園ニ小憩、五時之京都行急の
汽車ニ投ず、車中宇田と小酌雑談、時
巨福一夜十時京都着大文字と高木
後杯巨福付余り又二時と飲む

廿四日

陰天候寒し、今朝九時起床卯酒二杯、
二時間的業研、親一と随筆の稿を終

あ、二時の高田月夜旅舎の娘を引連田山
の新旅を去りし法久寺をゆめ其途十種
々の小品を購ひ五時始々四時長
酒会し八時旅舎にゆき、今夜九時高
田物京の途につく、

廿五日

今朝未京都旅舎に随筆の巻々福を校
正す、倦んで赤松景福の撰改各所歌集
を讀む、電氣スタンドの甚だ自在釘筍

二十七日

時、程村宗八出版部の件、廿五時迄九時半
日、印刷会社に到着、十時迄増資あり、付
株主の臨時況入事と聞く、滞りなく信額
増資あり、決定、花取のころと云、帰後と堀
池、七二時の事、未刊随書、十三回配本、
井戸側、おけ路終る、野を庭園、堀ぬき井
の修理に及ぶ、言村光雲より函、批別、昆の家
手紙後の果物を贈る、未、新石花好、あ
り、黒く己に到来、

二十八日

時、日本石油会社に配当金銀券、坂上、花来
り、注射を施す、夜、(是)是光、浄念寺、修、行
件、(つき)来、梅、河、井、あ、後、来、花、池、葉、の、稿
を、修、あ、有、各、家、中、(中)可、多、回、贈、り、社、も、高
村、光、雲、に、贈、り、へ、こ、昔、河、花、に、押、直、光、を、古、と
あ、即、時、言、り、し、七、廿、五、午、後、大、塚、家、別、邸、に、行
き、光、景、文、人、の、五、年、祭、に、臨、み、物、送、り、出、版、部
に、之、を、寄、り、入、事、と、を、り、し、七、廿、五、夕、刻、ま、り
池、葉、の、稿、を、修、あ、花、に、今、日、寄、り、回、報、合、内、打

除却果上程の結果三日間停令を命ぜらる

二十九日

天長節

時随筆の初を整理す、九時就て本町
宗家と信を浄念寺の紛糾問題を協
議しゆつゝ、おまゝ段御堂回す三回書し
尾上十七日牡丹八十五日支拂ふ百首
采校訂しうゑ、家用ち五十四由りて交付
五十四来月分昂と返す、帝國ホテルに於ける

田中穂積二の結婚披露会に臨む、講演
社の第一巻に一稿を草し投郵

三十日

時、朝来文の場合より於て戊辰地志会をひ
らくこのまゝ、小林柳宅島下村山をお改し冊子
編纂おこのまゝ、城瀬寺、村山秋浦のおみえ
おや、梓君自著、日誌留書前日記各二冊
外稿本一冊を石川源三とて二万由りて還
すべく、此の迄久しく所在のめんさるし、この
そと、寺に大切なる御念持し、十一時出版

部の幹部会を臨み、其も處り、国古紙
ニモリ故少の為次り、貴書約千部出能
遺族を定り、其のしよを換す、隨筆を
百道出の者、行を大石理田ニ交付、銀
行預金ニ百圓引出す、文の場合もニ冊配本
出致部を近刊六行配本

〇五月

一日

晴、山田清尾、岸、末、橋、松、根、を著し

七時を移す、石、山、元、花、美、の、計、別、の、香、典
を贈す、和、島、と、ま、ま、と、河、魚、を、贈、り、末、の、午、後、五
十、分、力、の、國、海、の、愛、護、を、讀、み、議、會、を、再、以
停、令、を、命、せ、し、り、内、相、龍、任、内、閣、改、造、の
内、定、と、新、多、野、外、の、使、り、清、正、の、徳、大、を、
り、来、也、又、二、刻、に、は、降、雨

二日

雨、朝、未、だ、眠、も、業、す、由、中、迄、と、伴、り、を、臨、生
と、物、を、贈、り、其、美、を、飲、し、午、後、新、村、の、武

花柳殿：映畫を先夜入りゆ書、其時
多乾乾を廻り来り、石津正男来訪。

三日

兩叔政府の断末魔混沈を極む、火災保険料四
十八圓、皇國火災保險會社に支拂、其末元
石津正男来訪、宗家より来出、来立の
三時迄花柳の流座を觀劇に振る、午後
石津元花柳の舞舞儀あり、池人を老より其
時、池人を老より鈴木内村等獨許任、发表

よ、今夜宗家の市此、既と臨む、時を愛
けり、も行かす、固き、彼場、今、速き、郵を
来り、亦、別二時、咳、嗽、頻り、困む。

四日

時、服部耕衣来訪、固き、彼場、今、速き、郵を
来り、亦、別二時、咳、嗽、頻り、困む。
て別り、湯山、其時、ト、フ、ト、ン、の、多、多、四、面、を
郵送す、濟南戰、日本軍、其戰の、報、刊

其時

○本日の泉源院に遊幸千河豫勅あるは
す、政府に更なる協力的豫勅案の通達を
夏更憲内省の状あり

五日

明新河の小山勅新訪物を贈る。岸
野を来る。宗家の千代高橋淳三未訪吉時
間洋念寺の給とす。仕未を聴。午後
むつと去る。三時歌。佐藤。日。印刷
令。得。先。を。観。劇。會。を。促。す。余

主人也。在。而。未。其。時。亦。ら。し。し。給。え。い。き。別
○伊。藤。範。利。も。来。間。高。山。山。麓。も。二。回。来
出。詣。淡。社。回。轉。令。も。来。也。

六日

甲

明新河念寺。閑。遊。す。つ。き。宗。家。の。主。人。或。訪
物を贈る。吉時。河。場。讓。して。去。る。直。淳。平
三。印。も。い。づ。ら。し。の。吉。時。の。つ。き。細。書。別
○松。平。伯。也。考。状。を。見。か。す。早。福。田。等。二
考。校。創。立。地。念。式。十三。日。東京。分。館。に。於。て

あまの秋の、午後上の美術協会の書及
篆刻陣列を見、文行書と法を錦繪を
贈心、始佳く、扱へび四時物書、高山出巻、五
田を、政府、對する総括の信任あまや立
派が政府に加勢し、以て考の審裁未了のまき
約老く、

七日

昨日市印刷会此の重役等、臨印
刷局長杉村三、まき未出、十日東京会報

：振、午後理報、支那の就航を、擴
大更、各古局三の國を、戦時編成
の下に出動、まき未出、危険島、迫
り、候、大以乙、候、まき未出、

八日

晴、山田、海、心、海、色、或、流、印、未、出、種、村、宗、八
木、林、胸、美、相、註、を、未、出、藤、井、印、二、まき、未、出、午
後、出、政、部、に、判、り、印、税、内、金、二、百、円、銀、紙
神、田、の、細、川、者、店、を、訪、り、二、百、円、を、銀、紙、

或法同新法各四冊を贈ふ、此者福地
梅庵の父石橋の自著、随筆を梅庵
が照つて字も也、山石有庵、古物代十二日
掛局

九日

雨、是頃度者も十九日十款今ある内川の人の
喉に及し小切額面数条の押置、版上希り注
射を施す、電話料廿四圓六錢納附午後内子
を休む、梅庵合、別り見、佛とあ、燈下、行幸、

什入場を得ず、後者、梅庵、梅
若、彼、不、印、の、訃、刊、の、處、必、此、回、者、彼、者、
り、未、書、の、無、名、氏、と、早、大、の、区、科、を、設、件、の、書、
書、

十日

晴、今朝九時松平頼壽伯を深井の邸、
訪、つ、て、日本、園、有、被、換、の、總、裁、以、ん、こ、と
を、と、あ、未、比、決、せ、ま、統、治、者、文、之、以、共、
集、束、二、卷、配、本、今、此、並、海、松、平、伯
訪、州、の、事、を、報、す、早、大、の、決、兼、寺、の、

十方准抄集分三冊す(き)漱茶を(き)りあふ、
午後三時梅着被中(き)の告おす、師又香
典十日題ふ、克と付名、漢書、敬業(き)田、
改有、日本圖書院協会(き)余を(き)聞(き)とす、
の推薦状到る、今夜杉印刷局(き)根(き)んた(き)も
行(き)お

十一日

時、後(き)あ、日本郵船株主(き)連(き)合(き)の(き)際(き)来
る、十四日(き)復(き)知(き)し(き)り(き)ん(き)ん(き)あ(き)田(き)長(き)治(き)一(き)方(き)る(き)心

引(き)又、神田(き)の(き)乙(き)店(き)を(き)訪(き)の(き)七(き)三(き)の(き)回(き)者(き)を(き)購(き)以
神(き)宮(き)の(き)回(き)名(き)を(き)二(き)級(き)と(き)切(き)る、出(き)版(き)部(き)の
リ(き)新(き)刊(き)書(き)業(き)文(き)館(き)の(き)前(き)進(き)を(き)配(き)を(き)し(き)来(き)る、
師(き)俊(き)吉(き)田(き)右(き)兵(き)衛(き)の(き)徳(き)川(き)政(き)友(き)と(き)漢(き)ふ
上(き)巻(き)讀(き)り、有(き)須(き)芳(き)治(き)印(き)し(き)も(き)未(き)出(き)版(き)
す(き)而(き)

十二日

雨(き)相(き)来(き)政(き)友(き)考(き)を(き)讀(き)ふ、十(き)九(き)の(き)富(き)山(き)房(き)社(き)来(き)ふ
リ(き)歌(き)の(き)後(き)序(き)の(き)観(き)劇(き)に(き)報(き)ふ、大(き)石(き)理(き)國(き)十(き)五(き)日(き)

睡て宗家主人未訪淨念寺問題のときを時分
協議の後三日午後七時教長と談話。又龍泉
も著す。夜に入り宗家主人淨念寺の順と其
の勸告を告ぐ。あまを指し去りし中。の台場派
の順をせよと多く招致す。決し十時あり。
未知の人小島義道も其の印とす。未
聞

十三日

和叔の山柳義四の来稿。是日宗家寮の中村

此四より其須其方次へのおかしき来訪。早稲田
中より幹事。廣本義章。決意者を高しし
来り。真澄社次へし。佛寺の菓子も郵
送し来り。午後九時を以て武蔵野の
映畫を観。田原屋に領してゆき。余の語
話と氣もなす。乾流。雄飛し。握手。

十四日

清水山秋海。来訪。中山高院。夙昔一稿交
付。其代金を以て。留客者。徳六。丹代
二万圓を以て。理せしむ。文の場。与。紀念。心

神奈川の原風情地三々業：関し贈賄の業
を以て拘留さるる多き等あり在る今朝の朝多紙
を見し之んを知り、千纒光を伴ふて教業館
に参り：おと婚ふて物一々、隨筆中の物を修め
て晩写しをりやむ。

十七日

晴、朝未始報を著す、九時森田曰はち山に大
隈房と訪めて文の場合の多きを安す、鮮人趙炳
傑、鬼丸亮、小堀外も来、播田代も酒を贈る。

外出中、坂上弘花、坂口献文、素直、今津甚
浪らと来、出文の場合二十四年記念と来、月
成、股合を促す、つとむ其際、是行のハンカシ
ツト、余の一文を要し、ぼの腹、果を練、
銀の預金二万円出、し、家用を兼ぶ、三時
光を伴ふて散策、吃例、各室のラジカセ、
多、あ圓の八日、目打撲と聴く、宗家、ら、廣
瀬、吹、廿三の朝、の上京を報、来。

十八日

明、朝来、戊辰、田、歌、法、を、著、し、る、戊辰、今、の、
紀念、冊子、に、収、め、ん、為、也、支、の、協、会、今、の、編、輯、費、
来、接、犬、木、操、と、し、来、出、石、塚、三、郎、一、差、入、物、を、
為、す、に、對、し、六、吸、者、三、と、電、話、を、交、へ、曰、く、托、す、午、
後、鮎、華、に、収、め、ん、爲、す、稿、を、属、し、十、数、枚、成、す、白、
須、墨、来、法、長、の、河、書、畫、函、法、を、交、ふ、曰、く、未、に、
人、來、活、物、を、始、也、

十九日

明、一、昨、来、執、事、の、手、紙、十、枚、を、校、す、山、形

舟、石、川、海、三、と、し、小、竹、村、寄、答、留、日、誌、を、挿、入、し、
く、二、竹、湖、山、并、に、二、石、田、の、銘、收、紙、を、録、す、午、時、
迄、式、流、印、大、隈、家、の、文、書、借、読、の、件、に、甘、未、訪、
午、後、吉、田、の、久、江、と、此、に、十、歌、今、午、に、臨、む、今、坊、十、
歌、の、宅、也、内、子、富、山、房、如、得、の、歌、を、復、查、制、
今、に、赴、く、と、此、の、桂、次、守、年、簡、新、報、を、夏、羽、御、
由、み、の、と、二、枚、成、す、

二十日

日

明、朝、来、人、を、備、心、大、掃、除、を、行、ふ、植、木、局、を、備

つき随筆の原稿を以て大江乙亥の未訪
出政部を以て山刊二種宛本を以て之と紙後石
井あつらひ：海出を以て之なり。星野彦彦察中
村中次郎の未出稿田徳成辰合のハンスレツ
トメねちべえの年表の稿を持来。新巻紙の
日英廿博士の河ありぬ出居の左死を以て廿七
池田龍一の自印に振る。

廿三日

頃、此の文抄りの紀念録：収むべき余が法話

葉記を授す。遂に復本：光の流儀
料六十八山掛山、新巻、て村山亀嶽山田教
城ももちの端方別、新巻を以て之と未出
成辰紀念の未出稿を以て之と未出
を拾出する。此の額金を用引出す。出政
部、此の原稿も其代近記六冊利未、市以聖
土屋文雅も其林考の原稿合に出居を
以て之と未出。物馬垣九河行余上も其
を以て之と未出。新巻を以て之と未出。新巻
へり此の白(一)

二十四日

雨宮鈴木内相辞任の後内閣改選、醜態
を極め久石を内閣せしめん為勅諭せし生し三土を
おのり文お内閣を去んしと三土先の軟化文お
も優詔を拜する是故を仕組んて出任とす
とこまむ力醜を撤して邊境を、関大印帝
國も在社教幼純治廿将居為今深等し
其も又土田潤も、未信九時其河のふ家と
這の淨念寺の度、漸の順来着こつき紛糾
を善家とせんとしる方余も、説く所あり、冬

多、決す、後利未、ろのま、の朝、吾人、と幼し
二時、尚も、西又降す、前田、士、の、為、親
診、案、の、為、来、り、

二十五日

晴、の、中、文、お、の、優、詔、内、閣、給、り、の、讓、諭、を
起し、文、お、亦、辭、去、を、決、す、金、と、去、り、金、と、醜、也、
本、林、賜、り、八、時、字、家、を、訪、り、淨、念
寺、問、題、こ、つ、き、協、議、油、停、調、り、す、
物、お、ん、と、ら、る、午、時、由、書、午、後、定、と、す、

あて邦樂府の缺書と見せしめ、
ゆゑに、邦金二万圓を出し、
並木光太郎、四郎、
并盆割と、淡合屋、
七四六十八、

二十七日

晴、風、山田、大石、
淨念寺件と、
日付、
動車、
受く、郵船、
配南金を、
上遠野

ふ、
配南金を、
上遠野

二十七日 日

晴、朝来、
信長、
推戴、
い、
状、
お、

二十六日

所、本林脇公移、(一)キ未訪、三万五十四内子、交付、
星田屋家、(二)油山、(三)徳田、(四)和を言て来、(五)山田
穀、(六)味、(七)未、(八)十時迄、(九)を伴、(十)之、(十一)教、(十二)集、(十三)銀、(十四)座、(十五)
物、(十六)を、(十七)將、(十八)の、(十九)と、(二十)均、(二十一)く、(二十二)河、(二十三)井、(二十四)夜、(二十五)未、(二十六)訪、(二十七)五、(二十八)時、(二十九)と、(三十)製
以、(三十一)可、(三十二)傳、(三十三)生、(三十四)國、(三十五)：(三十六)此、(三十七)を、(三十八)三、(三十九)山、(四十)田、(四十一)家、(四十二)今、(四十三)：(四十四)路、(四十五)也、
和、(四十六)田、(四十七)傳、(四十八)の、(四十九)自、(五十)然、(五十一)田、(五十二)園、(五十三)衆、(五十四)人、(五十五)を、(五十六)讀、(五十七)也、

二十九日

晴、朝未、(一)龍、(二)杯、(三)を、(四)兼、(五)す、(六)三、(七)崎、(八)西、(九)也、(十)ら、(十一)未、(十二)出、(十三)衆、
護、(十四)士、(十五)隠、(十六)退、(十七)を、(十八)都、(十九)す、(二十)牡丹、(二十一)と、(二十二)味、(二十三)噌、(二十四)を、(二十五)贈、(二十六)り、(二十七)未、
す、(二十八)和、(二十九)田、(三十)傳、(三十一)の、(三十二)自、(三十三)然、(三十四)田、(三十五)園、(三十六)衆、(三十七)人、(三十八)讀、(三十九)了、(四十)午後
華、(四十一)族、(四十二)會、(四十三)飲、(四十四)：(四十五)別、(四十六)り、(四十七)文、(四十八)山、(四十九)協、(五十)會、(五十一)の、(五十二)例、(五十三)今、(五十四)：(五十五)臨、(五十六)也、
長、(五十七)野、(五十八)朗、(五十九)の、(六十)お、(六十一)支、(六十二)政、(六十三)美、(六十四)の、(六十五)談、(六十六)話、(六十七)あり、(六十八)三、(六十九)時、(七十)梨、
木、(七十一)を、(七十二)も、(七十三)し、(七十四)ら、(七十五)松、(七十六)き、(七十七)を、(七十八)喜、(七十九)ぶ、(八十)け、(八十一)長、(八十二)く、(八十三)こ、(八十四)け、(八十五)大、(八十六)隈、(八十七)會、
去、(八十八)と、(八十九)也、(九十)此、(九十一)會、(九十二)を、(九十三)外、(九十四)し、(九十五)て、(九十六)行、(九十七)く、(九十八)高、(九十九)の、(一百)郵、(一百一)の、(一百二)臨、(一百三)谷、
と、(一百四)存、(一百五)大、(一百六)隈、(一百七)郵、(一百八)と、(一百九)極、(二百)り、(二百一)て、(二百二)此、(二百三)の、(二百四)報、(二百五)知、(二百六)也、
と、(二百七)此、(二百八)の、(二百九)聞、(三百)か、(三百一)ん、(三百二)と、(三百三)し、(三百四)海、(三百五)母、(三百六)傳、(三百七)展、(三百八)資、(三百九)會、(四百)の、(四百一)臨、

載、仰き、の關係上、評張、一日、今日、冬、
卯、お、福、を、妙、う、者、を、圍、入、て、一、日、前、
影、後、茶、葉、の、影、を、多、う、と、念、取、下、と
早、と、同、く、する、光、葉、を、得、たり、雲、葉、の
後、の、世、を、お、観、す、京、都、三、平、院、の
所、所、を、禱、し、る、も、也、庭、園、の、祝、換、雅、大
也、の、葉、の、子、を、お、戴、し、て、ゆ、き、名、古、心、も、
高、須、梅、江、の、郵、の、別、三、今、日、空、野、今、心、
う、の、三、十、敷、名、也、高、橋、源、一、つ、と、来、也、

三十日

時、来、栖、壯、兵、衛、遺、族、と、来、也、改、上、七、花、も、り
注、射、を、施、す、山、本、忠、國、二、高、橋、源、一、と、山、田、教
城、二、也、状、を、考、す、来、栖、遺、族、に、十、山、を、下、五、種、
花、社、の、飯、田、早、苗、種、物、を、高、く、し、来、り、示、す、
改、上、七、花、も、り、新、米、の、苗、木、利、三、種、贈、り、新、米、
飯、村、後、二、も、佛、事、の、葉、の、子、を、贈、り、来、り、七、花、
印、一、三、者、物、を、考、し、七、鏡、の、も、り、を、開、く、余、が、隨
筆、の、存、中、野、口、英、世、の、つ、き、五、枚、者、き、添、く
る、鹿、兒、の、出、版、の、ち、柳、馬、恒、と、来、也、大、政、の

今日月貴一は、この日、午後先をば、老教来日
を待たぬと、おと、婚心、日原、角、飯、と、御、一、五

三十一日

町中、中、祀、留、り、ま、下、法、院、乙、河、休、安、後、婚、由、紀、念
子、書、ま、つ、つ、い、未、後、隨、筆、の、稿、を、修、め、十、数、枚
成、了、。吉、田、秀、人、祀、由、り、を、未、後、横、山、正、花、と、し
書、書、し、ま、ま、目、録、を、ま、り、て、未、の、吉、川、木、十、数、と、し
酒、一、樽、を、贈、り、ま、す、福、田、中、之、外、三、日、回、書、附、り、し
と、為、す、府、税、三、日、之、外、支、納、付、

の六月

一日

町中、推、集、合、簿、法、社、と、し、余、の、思、出、は、ま、し
指、載、三、分、の、金、四、十、圓、ま、し、ま、す、。注、文、信、託、合
社、と、し、一、萬、圓、信、託、利、子、半、年、分、二、百、七、十
丸、山、四、十、八、人、(一、年、六、分) 領、事、也、埃、及、本、本、間、又
推、進、本、書、と、し、婚、心、の、法、院、乙、河、休、安、後、婚、由、紀、念
志、を、は、り、し、る、也、の、映、書、と、し、ま、す、。エ、ロ、子、ル
及、フ、オ、ー、リ、リ、ン、ト、の、英、獨、國、海、軍、船、と、し、ま、す、。

二日

而戊辰謝会の準備打金の比之森脚下山
機^木掃^木外訪をもつて託取の打金を為す
午後降り花見と小説を讀み持を移す
出版部も余の印税計算書を送附中
礼四日^{より}戊辰会出る期程を定めて来る
甚き重極う女子出生したんと死亡の報到

三日

日

而叔庭地の大蓮華を数葉今朝植ふる
送と訪を誤持其他の件を協議して

一、能本方ち柳馬垣の備に到る、高田友
和と話す先を伴ふて教員入著、其死を願ひ
中央停車場倉庫に貯りて由る、不車中
新島好孝生協会と毒丸三名未訪、内
子歌もあ伎座へ行く、津急寺一軒、付家分
り電報あり、夜未降あり

四日

而氣流々々、高田地元一河井合津
二方、又甚き重極の重極他二三書

状を尋ねて種村山久以来一未流、高田久家
本坊司と題する。此作霖雪り北京と退印を
天竺に二程七別車爆るるに程り法生元不の
のりより雅外出づ午後宗家の店員法生元不の満念寺
問題二つと云ふは訪種に事柄を聴かぬ。

五日

戊辰辰念念の集由状を獲す、下山未の集
由状を交附す、教印社より法生元不の長流念
の集由状列ふ共法生元不保陰念社より二

内ハノ集配由を述ゆ列ふ由驛念念と未出十時
林町の宗家に行き浄念寺一件につき堀河の
末吉折くても宗家の名は二印と法生元不の協
議別果実容易と決てす午後五時に到
り法生元不を去る、高田久家の改しりしと云ふ
教印の圖社おとす未也

六日

浄念寺開造よりきりし由の長徳寺任職
堀河に在る宗家より宗家よりきりし由の浄念寺を心

共満生會のことは、直に是る公報の社を
浮世俗屋の現今の招待券の送ら未
る、地四部一も来也、午後、雨散、東部、四の二三
の者、店を閉して、悔、三、雄、舟、今、洋、談、社、も、余、の
執筆、二、係、る、巻、頭、言、を、載、せ、る、七、月、号、講、談、録、の
部、を、定、め、る、事、

八日

昨、丹、馬、原、平、合、法、八、一、と、来、出、家、家、
皇、深、別、等、を、扱、く、昔、の、電、話、列、に、十、時、迄、を

付、く、と、散、策、大、曲、に、野、齋、微、を、結、成、日、を、持
ま、に、別、り、終、に、武、花、吟、の、映、畫、を、見、回
原、を、に、扱、く、と、昨、の、壯、漢、上、の、大、テ、レ、レ、シ、ン、の、控
し、田、中、首、を、刺、し、し、捕、ら、る、

九日

昨、朝、未、旋、報、を、著、す、阪、に、献、文、十、時、迄、十、時、出
阪、部、に、別、り、幹、部、會、に、臨、む、午、後、引、つ、き、
株、主、總、會、に、臨、む、本、期、配、南、二、割、を、決
す、余、の、功、益、を、配、南、金、二、千、百、七、十、五、円
當、其、金、利、十、円、を、受、く、出、版、部、備、考

明令は一二湖者を以て、金千圓のり、務け
入る内、崎北より東に、植木庵一人、松の千入奉
る。内、崎北より伊達支村の机籠一籠を器ら
る。表、柳八の務、二つ、美法、生田七の、板、画、
り、出、不、乾、湖、を、貯、り、之、後、隨、筆、又、の、墨、墨、集
身、三、冊、配、本、午、後、湖、を、得、て、上、の、美、術、院、に
托、け、る、敷、切、札、の、活、世、給、展、覽、會、を、見、る、今
日、觀、覽、の、もの、杉、方、花、の、鳥、居、法、去、版、畫、
三、畫、の、の、歌、聲、百、五、十、二、張、外、肉、筆、の、内、に
喜、ぬ、院、觀、入、是、し、御、物、南、香、法、來、回、展

提振寺の花の上山、湯家、四、番、河、原、回、修、後
賀、家、皇、國、神、祇、祭、典、原、風、寺、二、時、從、院
眼、福、を、得、て、物、る、由、事、後、法、院、を、奉、り、し、又
湯、こ、も、の、村、山、島、野、々、來、也

十二日

時、此、の、府、會、派、入、異、奉、以、及、今、大、敗、
二人、來、る、行、村、堂、八、大、石、現、因、目、流、
務、事、の、附、金、五、万、圓、交、付、同、旨、
方、を、托、す、高、橋、他、三、院、を、來、訪、
台、灣、山、中

推しと来出十一時外出二三名料理を備へ、
果てに飯し、二葉店に外圓知紙切り二紙製
果才を購ふゆへに、税務署より余の所得額
と二萬二千四百九十圓家族分合のせし二葉と二
千二百三十圓と決定し、西紙色を以て附し未
だ、税務を甚くす、河津安後と来出

十三日

時、河津安後車旅、在島渡山也、推しと来出
甚く、福田成辰合のつと、坂本三郎、子校の

由状、このころ、坂本との事務二時、同ころ
川上、午後、税務を甚くす、植木、子、来出、午
後、傳人七神、同、散策、由、合、(不、七、男、合)

十四日

和、今朝、河津安後、同、付、大隈、店、と、存、を、や
村、夫、是、執、業、脚、を、大隈、元、候、を、積、み、其
池、行、を、ゆ、ゆ、る、大隈、講、を、に、柱、を、海、山、に、演、せ
し、由、人、と、す、る、よ、の、也、先、に、ア、八、代、を、二、千、五、百、圓
の内、百、圓、手、積、金、交、付、為、由、負、取、目、以、由、の

七来る。講談社の星川義道(修養書家)の
の内、牧のん、余と山陽の宿を清く洗し
て返す。福井のち物運極く、来信極
木屋二人来る。台湾の重極く物を郵送。出版
部と近刊五冊配本。

十九日

昨朝来地筆の宿を修む。森脇合紙二付来
秩、浄念寺問題のりき。字家主人市内塚
花田代来訪。午後出版部二到り部員

二賞典と行の。随筆の。紙巻を大石理用
二週う。植本尾三人来る。昆田他一山の洋
二付先おのる。新助種(張込紙
才二集を心。二付材料を換出。七時を初
す。

二十日

雨、十時の印刷舎代。社多。二賞典を
行ひ。社務を協議。午後物書。文の協合
二四日始末の報。砂。二る。用。後。二。協合

う道刊一冊配本を受く、悦阿光の友人前原公
ち身、百曲を伴ふも、田原角三、飲し、前原を
東京輝く返り、後後小説を獲む。

二十一日

雨降下、加へて一二の箱を唄す、大石記、余の
随筆、校訂、つぎ未読、古鈔本、玉川、考証、
通田、中、山、向、郵、送、す、先、を、付、を、給
す、物、を、贈、ひ、上、等、の、美、術、館、に、渡、せ、給
へ、長、巻、合、を、見、る、午、の、校、書、四、冊、目、の、か

中、結、り、し、字、集、七、十、二、枚、最、七、見、る、も、是、の、文
行、中、に、三、定、の、一、二、の、目、書、を、贈、ひ、二、十、四、冊、
昆、田、福、一、洋、行、の、つ、ぎ、親、父、の、品、を、贈、り、昆
田、未、之、人、を、訪、ひ、て、物、を、買、ひ、里、川、義、道、の、未
書、伊、藤、軒、利、の、物、を、贈、り、来、り、す。

二十二日

雨、河、井、新、後、の、日、淡、味、書、起、人、合、を、い、ら、く、こ
の、き、打、合、の、為、来、り、稲、田、環、成、辰、合、に、陳、列、す
べき、目、考、物、の、目、録、の、稿、を、持、来、り、一、二、冊、校

明朝来遊叙を兼す、九時より宗家と訪れ、出
京の市島琢庵と興生海念寺副題を協議
す、余の滞留時の未来らんとす、宗家を
評議の外に立しある前回の内儀を固執す
るに決し、午後後宗家主人并琢庵を伴ふ
て大隈會館に到る、今日文の協会の松尾成
辰分を催す、二百人強、会長開会、の致
意を致す、跡を植原白直、英彦、渡辺とす、余
田中徳地、大尾の親辭を代、漢一木、宮相、四内
おの祝能あり、露四大使、英語の演説を

高田博士、金子子三郎の演説、今を刻と
展覧會へ、ある由、茶菓を饗あり、四時
散す、京都、新村博士と、余の文を攝録
し、四時、副演本を贈り来る、不在、市
山形の富海、産田中、山形、山形の
海色、總てらり、果物を贈る

二十五日

風冷し、小雨、旅館を兼す、十時、日印副會
社の株主、總會をいらき、能南、率一刻と決

収めんき印刷物及紙を揀出し文三法込
三冊成る。

二十七日

雨控紙を巻す内巻久定未過梨本巻下
賜の菊の御役奉入銀盃報礼紙貴物巻飲
事、中田御巻奉訪烟山子大申とて道刊再
生の歌未も執ると驚き。加賀巻三印
り圖書目録を寄せ且る。四時とて巻を傳ふ
て大隈藩を三利り流の心一らの法則を

ふ出しよの白吟糸十印大隈重信とて此に
衆を主古のせり、もふと終の目とて印
の社貴職工得巻を併せ八名信見を為す
余巻居の海正を流の巻抄を為す初
以来満買り大隈重信也

二十八日

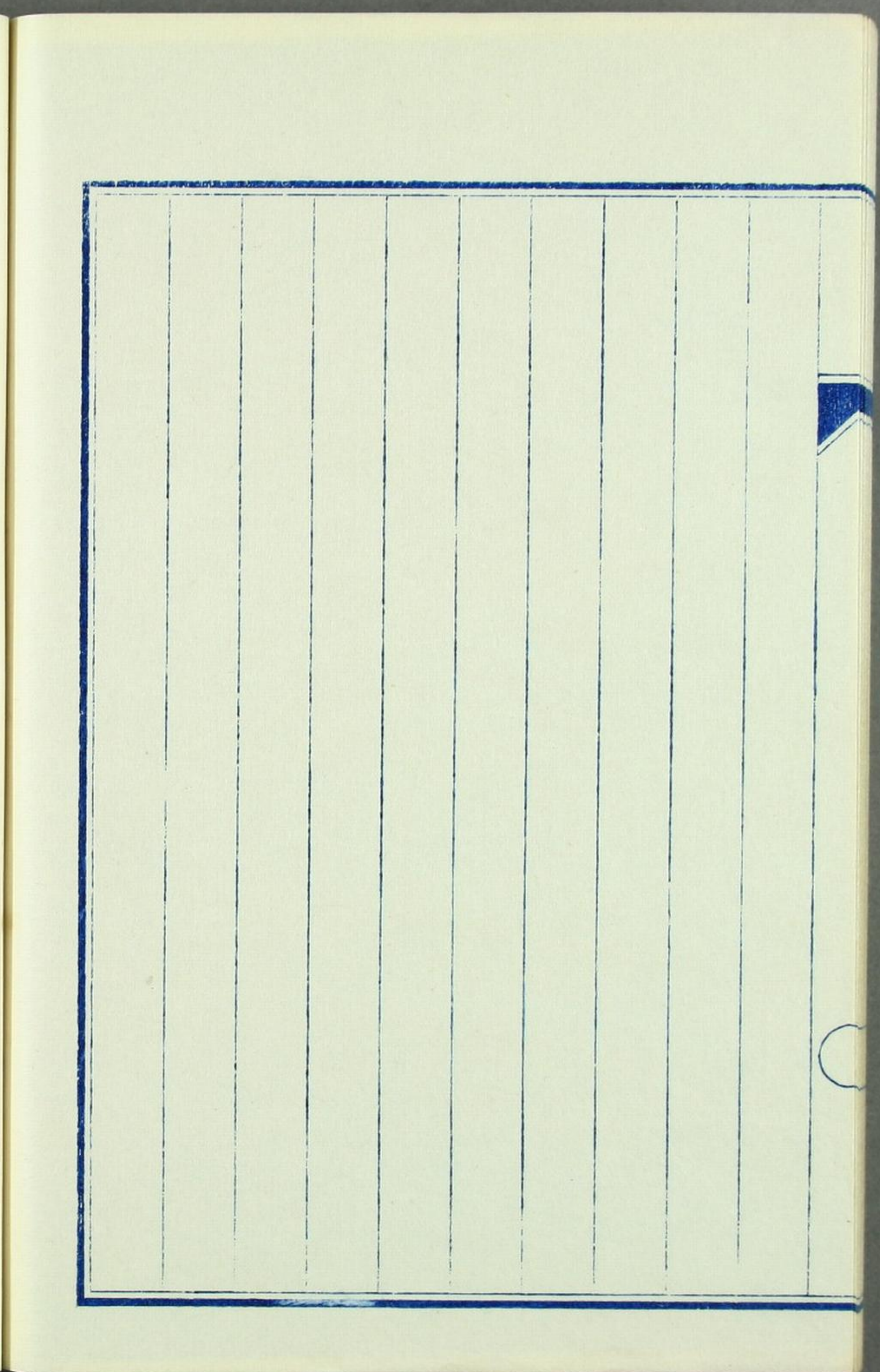
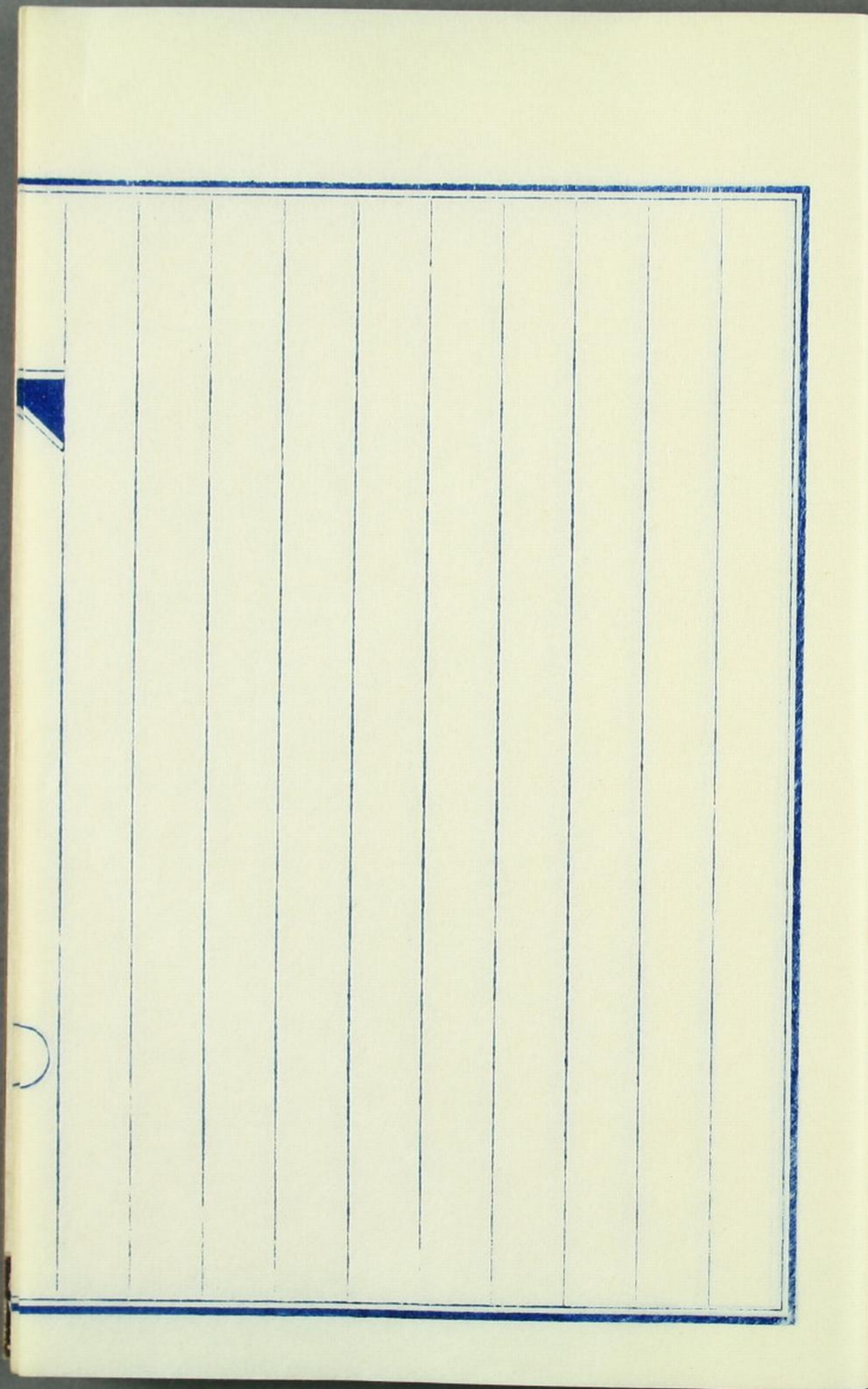
雨田代巻外未訪拙巻端冊二十枚を照ふ
三巻十印内子に交付、石塚巻とて巻入お代十印
又家族、海す、文の協会とて貸付の巻十印

七どの、異國書者一冊ツンベルグ^{日本}紀の配本、和
生に数葉ニ多尾をも英回製砂時計
と攝山廿五日拂、印刷會社に増治尺
株三十三、対上拂入、皇三午の四也
但し、配本金に前拂入、今迄、交付款、
入リツンベルグの日本紀行を授け、

二十九日

雨、旅費を暮らす、海浜社をも依頼、頼山
陽執事、このき、版前を定印、坂上弘義、非

慶田、このき、来訪、六朝、助、雅、交、然、二、張
このへき、雅、交、を、檢、出、し、文、三、七、七、點
近、ま、し、い、こ、こ、二、集、四、冊、成、る、山、田、清、尾
来、訪、也、刊、出、配、本、を、受、く、ツ、ン、ベル、グ、の、日、本、紀
行、を、讀、む、つ、け、て、多、く、時、を、費、す、す、午、後、海、浜
會、社、に、來、訪、四、時、半、終、り、彼、に、到、り、三、人、合
と、候、お、金、を、二、十、の、来、月、の、中、に、家、回、し、
と、内、子、に、渡、す、報、知、社、も、海、金、を、の、財、
多



以下全て

白紙

